

別紙様式2

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業および研究協議の要旨

市町村名 交野市

実践研究校名 交野市立第三中学校

【公開授業】公開日：平成26年 1月28日（火）

対象学年：3年生

(教材・教科書名)	(本時の指導の目標)
(単元名)	・教科書名：New Crown 3 ・単元名：“We Are Talking 7”

(本時の授業において工夫した点)

- ・導入場面において、生徒への興味付けのため、教科書本文内容を脚色し、実在の人物に置き換えた。
- ・会話練習する際、生徒が興味を持ち、文を作りたいと思えるようなピクチャーカードを使用した。
- ・会話文の作成においては、生徒が意欲的に取り組めるような場面設定を考慮し、用意した。

(授業後の振り返り)

- ・導入場面、ピクチャーカードでの会話活動、会話文の作成と、どれも生徒は興味を示しながら活動に取り組んでいた。
- ・生徒が発表する際、答えが一つに決まっているものに対しては、積極的に発言できるが、そうでないもの、或いは自分の考え（作品）を発表するとなると、なかなか手が上がらない。（ペアで発表と言うこともあってか）練習時間の十分な確保や小グループでの発表などもう少し工夫が必要だったのではないだろうか。
- ・ALT の話し言葉が若干難しく、スピードも速かったため、内容を聞き取れているかの確認作業をするべきであったが十分にできず、JTE が訳してしまう場面が多々あった。

【研究協議】

(テーマ)	(指導・助言者)
・コミュニケーション力を育む指導方法の工夫・改善について	交野市教育委員会 学校教育部 指導課 大隅指導主事

(研究協議で出された意見)

- ・会話の作成時間と練習時間をつなげずに、区切った方が、すべきことが明確になり、良かったのではないか。
- ・クラスで発表することに対して、間違っても大丈夫、みんなが受け入れてくれる、と思えるクラスの雰囲気作りや生徒への指導が大切ではないか。
- ・自作したものを全体の前で発表する前に、小グループで発表する時間を取るなどして練習させ、自信をつけさせることも効果的ではないか。

- アイコンタクト、声の出し方、ジェスチャーなど、コミュニケーションにおいて必要なことを英語の学習を通して常々指導していくことも重要ではないか。
-

(結論又は要約)

1. コミュニケーション活動において、生徒の興味関心を高める場面の設定づくり。
2. 「作業」→「小グループ活動」→「発表」と段階的な練習により自信をつける。
3. 生徒の自発性を高めることのできるクラスの雰囲気作りと日常の生徒指導。